

う若い女性職員でした。そういう女性ももっとも増えて欲しいですね。日本の国連代表部の公使も女性ですが、女性には非常に少ない。カナダの外務省には、実に沢山いますよ。夫婦を同じ地域に派遣することもあります。私がニューヨークにいたとき、夫は私のところ（総領事館）で、妻は国連代表部で働いているというケースがありました。そういうのはいろいろなところまでできます。日本の女性にも頑張ってもらいたいものです。

五〇周年を迎えた日加関係

松山 最後になりましたが、今年は日加国交五〇周年に当たりますね。

大使 両国が公使を交換したのが一九二九年です。カナダが海外公館をおいた国の中で、日本は非常に古いですよ。代理公使として最初に赴任したヒュー・キンリーサイド氏は、ブリティッシュ・コロンビアにまだご健在です。

松山 おいくつですか。

大使 八〇をとうに超えているでしょう。私とは親しい仲です。国連の技術援助局長、ブリティッシュ・コロンビア州

九月です。戦前はずっと公使館で、大使館になったのは戦後です。

松山 ところで、大方の日本人にとって、カナダはアメリカの真北にある、広大で寒く、そして静かな国——というイメージしかないようですね。米国にはカリ目を向けて、カナダには関心を示す余地がないという感じですね。日本がカナダから、石炭、小麦、木材など、年間二五億ドルもの物品を輸入し、自動車、テレビ、ラジオなど十八億ドル分もカナダに輸出しているなんて、ほとんどの日本人は知らないですね。カナダにとって日本は米国に次ぐ第二の貿易相手国であり、日本にとってもカナダは六番目に大きい貿易相手国ですから、お互いをもっと知る必要があります。

大使 同感です。現在ちようにそれを進めているところです。特に過去二、三年間、両国はお互いをもっとよく知るよう努めてきました。人々の往来が多くなったことは、その努力のひとつの現われでしょうね。カナダを訪れる日本人は、年間十二万にのぼるようになりました。

松山 一九七四年に田中首相がカナダを訪問しましたね。

大使 それが大きなき転機となりました。大平さんも外務大臣として同行されました。そのとき以来、両国の関係を貿易だけでなく、ほかの分野にも拡大し、そして深めていくという政策を意識的に進めています。

松山 トルドー首相も来日しましたね。

大使 一九七六年でした。そのとき、ご承知のように、日加文化協定と日加経済協力大綱が調印されました。当大使館

には広報部ができて、カナダに関する報道も非常にふえました。カナダでも日本に関する報道がふえています。これはとてもいいことです。文化交流の面では、トロント交響楽団が日本で公演しましたし、歌手や芸術家の交流も盛んになっています。学術交流においても、日本研究、カナダ研究が盛んになりました。こういう風に、各分野で交流が深まっています。

しかし、松山さんからお話のあった通商関係ほど、両国にとって重要なものはありません。日本はカナダにとって二番目に大きい市場です。貿易額は、往復で四十三億ドルに達しています。七億ドル、カナダの黒字になっています。しかし、日本からカナダ向けの輸出品は工業製品で、カナダから日本への輸出品の大半は粘結炭、なたね、大麦など未加工品です。

から、輸出品にかけた労働時間という観点からみれば、日本が得ています。カナダとしては、できるだけ加工度の高いものを輸出したい。その点工業製品の輸出は増加しつつあり、喜んでおります。ご承知のように、カナダ製の原子炉キャンドウ炉を日本が導入するかどうかが開紙上で話題になっていますが、キャンドウ炉は間違いなく世界最上の原子炉です。それを日本に輸出できれば、その意義は非常に大きいですよ。日本における電力の供給力を高めるのはもちろんですが、カナダが天然資源だけの供給源であるだけでなく、高度の技術開発力をもった国だということが示されるからです。

以上あげたほかにも、スポーツの交流は盛んですし、経済人の相互訪問もひんぱんにあります。先日はブリティッシュ・

コロンビア州から、ドン・フィリップス州経済開発大臣を団長とする経済使節団が来日しました。フィリップス大臣が来日するのは、二年間で三度目です。日本に石炭を輸出している大手の業者も来日しました。小麦局の人もきています。一年中、カナダからの訪問者はたえません。両国の関係は増大するばかりですよ。

松山 本当にそうですね。故人となつたアメリカのジャーナリスト、ジョン・ガンサーは、国家間の戦争を防ぐには、貿易と観光を促進するのがいちばんだ、と言っています。私もその通りだと思います。

大使 日本とカナダが戦うことは、まずありませんね。

松山 政治家や学者、ジャーナリストが相互訪問することは、その意味でいいですよ。映画なども、相互理解を深めるのに効果的ですね。最近では若い日本人が大ぜいカナダ観光にでかけていますが、これも日本がカナダを理解する上でいいことだと思います。日本を訪れる若いカナダ人が少ないのは残念です。円高で金がかかり過ぎるんですね。

大使 本当に金がかかりますね、日本は。しかし、日本にくるカナダ人は、結構多いですよ。観光にね。ただ、円とカナダ・ドルの交換レートがひどいですから、若い人たちが日本にくるのはむずかしいというところは事実です。状況が良くなれば、日本にくる若者もふえるでしょう。

松山 そうなるといいですね。

(翻訳・文責 広報部)



電力公社などを歴任するなど、非常にすぐれた人物です。現在はコンサルタント業をしています。キンリーサイド氏のすぐあとに、初代公使のハーバート・マラー氏が着任しました。一九二九年の